

(株)大風印刷

スマートフォン、タブレット等々デジタル媒体が主役の時代にあって、紙媒体は劣勢に立たされていると懸念する声が少ない。だが、一方で高度に進化するデジタル技術は今、印刷物に大きな可能性をもたらしている。(株)大風印刷は業界に先駆けてデジタル印刷システムを導入、新たなビジネスを展開している。



(写真右) 本社作業ルーム。この場所からさまざまな商品が企画、提案される。
(写真左) 創意工夫が同社のモットー。頻繁に見交換の場が設けられる。左端が大風社長(写真下) 2004年9月に産声をあげたフリーマガジン「gatta!」は、印刷という活字に關わる生業を続けてきた大風印刷が選んだコミュニケーションツール。写真中央にクリアアトナーを使用した大風社長の名刺。

名刺に新たな付加価値

差し出された名刺を少し斜めに角度を変えて見ると、会社のロゴ「Okaze」が並び浮かんでくる。裏返すと「犬小屋で寝ている犬のアニメに出てくる子どもチャーリーブラウンが50歳になりました。」のメッセージとともに、似顔絵が右下に光の加減で浮かぶ。自らをチャーリーブラウンに見立てての自己紹介。名刺の主は大風社長だ。

「名刺は仕事上において重要なツールです。しかし、その割には余り顧みられていない。デザインを含め、相手が手にした瞬間、『おや?!』と思わせる工夫があっても良いのではないかと。そこから初対面同士、話のきっかけがつかめるのでは。そんな発想から商品を開発しました。」(大風社長)。

立体感ある名刺はクリアトナー

を使った特殊加工によるものだ。さらに付加価値を付けて需要を拡大するために、同社は新たな印刷システムを導入した。

特殊加工が可能で高画質、高速出力、小ロット、低コスト印刷を可能にする条件を満たしたのがPOD(プリント・オンデマンド)システムだ。オフセット印刷並の高画質の仕上がりで表現力の高いプリントができるほか、当然ながらデジタル工程のため、オフセット印刷のように何枚もの版を作る前工程が不要で、小ロット印刷にもコストや時間をかけずに対応できる。しかも、クリアトナーが内蔵されており、通常は後処理対応が必要なクリア加工を瞬時にできる機能を持っている。

「ラ・クラルテ」—透明そして希望

同社は、この新システムを使って先に紹介した名刺をはじめとす

るクリアトナー商品を新ブランド「La Clarte(ラ・クラルテ)」シリーズと名付けて売り出した。クラルテはフランス語で透明の意。光明、希望の意も含んでいる。

名刺、年賀状、カレンダーのみならず、顔写真が順にひとりずつ変わるオリジナルの卒業アルバムや記念冊子づくりへの活用も提案していく。個性的な商品を提供することによって印刷物に新たな価値観を加えていきたい。(同)

同社の歴史は1947(昭和22)年に遡る。戦後の混乱期に初代茂吉が街の文房具店から転身、謄写版印刷業(大風謄写堂)を始めた。以来、「新しいものが好き、好奇心の塊」と自他ともに認める2代目茂吉現会長の性格もあつたのだろう、めまぐるしく変わる印刷の世界において同社は、他社に先駆けて新しい技術・システム機器を導

入してきた。

次々と新システム導入

最近の例を挙げると、東北で初めて導入したカラースキャナー。油絵や織物といった表面に凸凹のあるものをスキャナーで取り込み、画像として立体的に再現するシステム。内部に2つの光源と角度を変えられるカメラを備え、光源から出た光で影を出し撮影する。高精彩の美術印刷「ファインアート」シリーズとして売り出しており、絵画の微妙な筆のタッチ、質感が生き生きと表現され本物と見まがうほどだ。油絵の画集や外壁材のカタログといった新たな需要を掘り起こしている。

大型UV(紫外線)インクジェットプリンターも東北で初めて導入した。アクリル板から壁紙、木の板、段ボールと多彩な素材に高精度な描画ができる。大きな台の上に印刷したい材料を置き、その上

をヘッドが行き来し直接インクジェットを吹き付けプリントする。吹き付けた直後にUVの光を照射することで瞬時にインキを固め定着する仕組みだ。ロール紙への印刷も可能だ。

シールに印刷してから貼り付けるという手間が省け、直接印刷によりコストも抑えられる。クリアファイル、等身大パネル広告、タペストリー、懸垂幕、ウインドフィルム、さらには企業のノベルティ・グッズ(企業の記念品)や景品、スマートフォンケースへの写真印刷、ゴルフボールへのロゴ印刷に使用されている。

早く、美しく、個性的に

ルネサンス時代にグーテンベルクが聖書を普及するために、火薬、羅針盤とともに3代発明のひとつ活版印刷を世に送り出しおよそ560年。今、印刷の世界には大転換がもたらされている。主役はデジタ

ル印刷。素早く、美しく、個性的な世界が広がり仕事に付加価値を、生活に潤いを与えている。

同社の理念の1つは、創意工夫し印刷人としてともに喜び合える特徴のある会社。

「いつの時代にあっても印刷はコミュニケーションの交差点であると思うし、そうありがたい。市場のニーズをしっかりと把握し、価格競争ではなく技術革新によって付加価値をつけ、地域社会の皆さんのお役に立ちたい」と大風社長は話している。

(株)大風印刷
創業1947(昭和25)年2月。設立56(同31)年2月。資本金1,600万円。代表取締役会長大風茂吉、同社長大風亨。一般印刷全般、カラー印刷、パンフレット、商業印刷など。印刷業界で東北初の情報セキュリティシステム国際規格の認定取得。フリーマガジン「gatta!」を発行。障害者雇用を通じて地域社会の発展に貢献。2012年度山形県産業賞を受賞。
本社は〒990-2338山形市蔵王松ヶ丘1-2-6。☎023-689-1111。